

# 遊

2

Juggle  
Ethnicle romance



Okito Endo  
袁藤冲人









# Contents

Ethnic romance Juggle

## キリム篇

003 chapter 1

037 chapter 2

## アジニ篇

083 chapter 1

121 chapter 2

147 chapter 3

195 chapter 4

231 Omake





いの祈りは  
すんだか?

では  
参るぞッ

鐵<sup>てつ</sup>血<sup>けつ</sup>ツ

パタ

パタ







おも  
い  
あ  
が  
つ  
た  
異  
教  
徒  
共  
を  
撃  
肘  
す  
る  
は  
我  
ら  
が  
大  
義  
ツ

我  
れ  
に  
続  
け  
!

て  
っ  
け  
っ  
鐵  
血  
ツ

て  
っ  
け  
っ  
鐵  
血  
ツ





ぜんぐんかま  
全軍構えッ

そうやく  
装薬ッ

よしッ

うちがね  
撃鉄ッ

う  
かたようい  
撃ち方用意!



ア  
テ  
イ  
ー  
ス  
ッ  
撃  
て  
ッ  
!!

き  
ろ  
う  
き  
し  
た  
ち  
教  
皇  
の  
騎  
士  
達  
は  
け  
ん  
か  
か  
剣  
を  
掲  
げ

ひ  
い  
っ  
せ  
ん  
火  
は  
一  
閃  
で  
ぱ  
ら  
い  
ぞ  
の  
も  
ん  
び  
門  
扉  
を  
う  
ち  
や  
ぶ  
破  
る



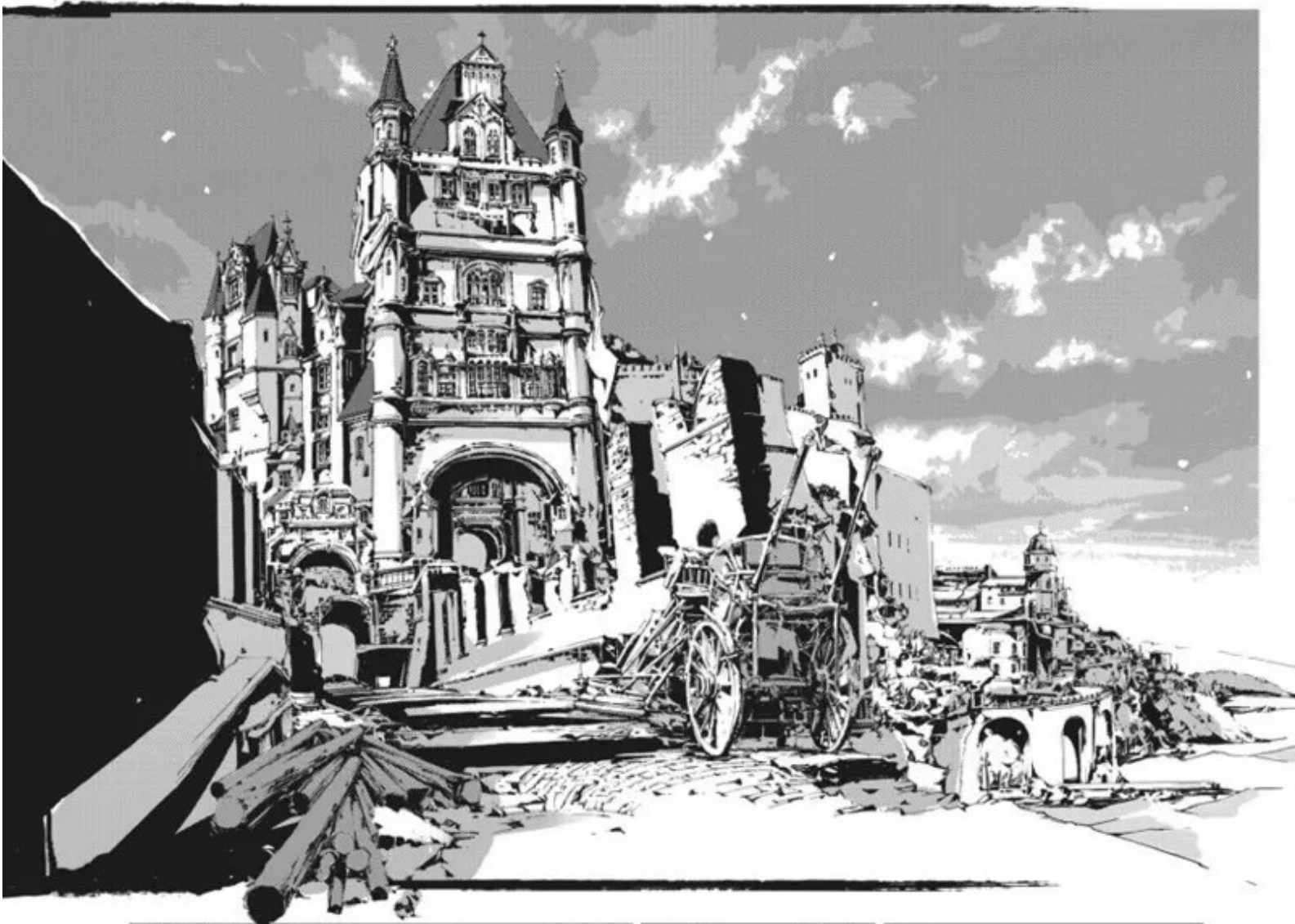




アラギユン  
太陽の神兵達は  
火を振るう

雷火の兵卒  
史上最も早くに  
火器を用いた  
軍隊の名である











たい  
おもしろ  
大した玩具だとは  
おも  
思わないか？



ひと  
いのち  
人の命をこうも  
かる  
軽くしてしまう



ゆびさきひと  
指先一つで  
甲冑を貫き  
肉を喰い破る









この火薬と燧石で  
成される死には  
感動が無い



つまらん

この手で斬らねば  
心が躍らぬ

牙を交えねば  
血潮が騒がぬッ





異境の神よ  
照覧するがいい

観客は  
おまえだ

演目は――











はっひっ  
あああッ



どうした  
なぜに  
何故逃げる？  
おまえ達の神が  
みえているぞ





つまらん  
かみ  
きょう  
か  
神も興醒めだッ













# 薙

Juggle  
Ethnic romance





※チューリップの事。中近東一帯が原産地。









はんにあまえ  
半日前



ソフラア様の  
事をもっとよく  
知りたいと？

はい…？









それで俺に買い出しの荷物持ちを?

私：料理人になりたいんです



ストーン

定住地を持たぬゆえの問題それは……

私達は長年砂漠と荒野を流浪する民でした



物に溢れ人々の笑いが絶えないこの国は私達から見れば一年中お祭りをしているようなものです



もちろん美味しく頂く工夫はしましたけど……

甘味や野菜は夢でした

ラウダの蒸籠  
ナメタの粉物  
保存食は有り  
です



飯が不味いのですッ!!

ふんしゃあめめ





きょう あした  
今日も明日も  
いつまでも続く  
常世のお祭りの国

ここならきつと  
ひめさま  
姫様も楽しんで  
くださるものと  
おもっておりました



たの  
楽しんで  
ないのか？



きたい  
期待してますよ  
さま  
アムシヤス様ッ

トッ



おお おお  
なん なげ  
何と嘆かわしいッ

まっし  
末子とはいえ  
いっごく  
一国の王子が  
にもつ  
荷物持ちとは…ッ



商王ザハーク!





はああ

ほわわわ  
わわわ



























ふむ……  
神は天におわし  
世は全て  
こともなしかな



おいその辺に  
しておけよ  
この覗き野郎

わはッ……  
すごいです

















# 薙



**Juggle**  
Ethnicle romance











お!!

お!!

しつけー  
ガキだッ

お!!

お!!











きたね  
汚え手で  
おれもの  
俺の物に  
さわ  
触んじやねエ!









ふん  
ふん

そのもみあげハゲツ

なにッ?

そんな性格だから  
頭も薄いんだ  
このハゲツ

あっ...かーちゃん  
俺折れる...  
心が折れる...

反省しろ  
ハゲツ

あと髪が  
キモイ!

つーかあんた  
絶対超訳して  
るだろッ!

よッ嫁入り前の娘が  
そんな汚い言葉を  
使うんじゃないよッ!

さて...  
仕切り直した

ちよッ  
何を勝手なッ

はアッ!?

驚いた!  
なんて見事な  
手織物だっ!?

何だ?

掘り出し物か?

ほう：我々商人  
相手にやる気か  
お手並み拝見と  
いこうじゃないか



















小さいがほぼ中央にある  
この模様は「櫛」を模して  
織られている



成程「櫛」か……！  
幸福や厄除けの象徴として  
好んで嫁入りに  
用いられる物だッ



数世代前に  
二つの民族が一つになり  
今ある何処かの国になって  
いるかもしれないッ



その証たりうる  
この手織物  
どれほど貴重で縁起良い  
物だろうかッ？！







お断りだッ

さあ世界に冠たる  
文明文化の交叉路で  
目と手を競ってきた  
大商人諸兄ッ!

これは流れ流れて  
此処に漂い来たった  
財宝船だッ



こいつに新たな帆を立てて  
熱砂の大河に乗り出そうという  
勇気ある船乗りはいないかッ!?



お待ちッ!

そいつは私たちが  
二銅貨で買った  
もんだよッ

そうだ返せッ

人生乗るか  
それか  
大商いに  
おあきな

二銅貨しか  
は張れない小人が  
商いを騙るなッ  
あきな



うッ

そうだ  
よく言った！

おれたち  
俺達は命懸けで  
砂漠を渡る  
貿易商人

二十五金貨  
出すぞッ！

四十五ツ！

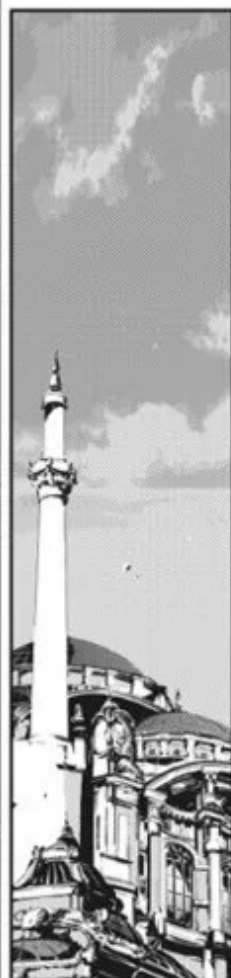
ものは値切るが  
商の魂までは  
値切らねエ！

五十二だツ

五十五ツ

五十九ノ







村人の全てが  
偽織物作りに  
従事する

贗作工房としての  
隠れ里すら  
あったほどだ

手織物は遙か昔から  
遊牧民族固有の  
貴重な特産品だった

列国の王達  
は競って買い漁った  
ものさ

そこには様々な  
製法や模様の  
情報が集まり

百年以上も  
織り続けてきた  
彼らの技術は

いつしか  
本物をも凌駕するに  
至ったと言われる

ゆえに贗作も  
数多ある

それが列国の  
王達を怒らせた















おそらく彼女は  
そんな里の生き残りの  
末裔なのだろうよ

あの至高の贗作も  
奇跡的に残った  
一枚だろうさ

村人は鑒にされ  
贗作は里と共に  
燃やされた

俺にはあの古びた  
染料の染みが  
血糊に見えるね





そりゃ  
破格だよ



まあ  
なにせよだ

手織物一枚に  
百二十金貨もだど？



ポカホン



わハッ…







ことば  
言葉は通じなくても  
おも  
思いを伝える事は  
できますよ



ほらその娘の顔に  
書いてあるじゃないですか



えがお  
いつぱいの笑顔で





Ethnicle romance **Juggle**























砂漠にある国にとって  
水脈は金鉱以上の  
価値を有します



日々足元に積まれる  
金貨 それは売られる  
自分の腕りの表札

ロブノールの巫女を  
取り巻く駆け引きは  
彼女を絶望の殻へと  
追いやるにきして  
時間を要しませんでした



何よりも辛かったのは  
代々の姫巫女の家系  
慰み者の人形の家系



母の笑顔  
一度も見事のない  
生い立ちなど私には  
想像もつきません



せいほう  
えんらい  
西方より遠来の  
この御仁……

それはこの方の  
星回りを左右する  
大きな出会いと  
言えましょう



別に  
そんな相手  
おりません



よッ





知<sup>し</sup>つて<sup>る</sup>  
お<sup>アタリ</sup>手<sup>タマ</sup>玉<sup>タマ</sup>で<sup>し</sup>よ

そ<sup>ど</sup>ん<sup>こ</sup>な<sup>の</sup>  
何<sup>ど</sup>処<sup>こ</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>る</sup>  
遊<sup>あそ</sup>び

そ<sup>せ</sup>う<sup>かい</sup>さ<sup>に</sup> 世<sup>せ</sup>界<sup>かい</sup>中<sup>に</sup>  
に<sup>ひろ</sup>ま<sup>あそ</sup>った<sup>すこ</sup>遊<sup>あそ</sup>び  
だ<sup>から</sup>こ<sup>ろ</sup>ろ<sup>い</sup>ッ



ふ<sup>ふ</sup>た<sup>ふ</sup>り<sup>ふ</sup>  
あ<sup>あ</sup>そ<sup>あ</sup>ぶ<sup>あ</sup>姿<sup>あ</sup>が

数<sup>すう</sup>千<sup>せん</sup>年<sup>ねん</sup>前<sup>まえ</sup>の<sup>い</sup>遺<sup>い</sup>跡<sup>せき</sup>  
に<sup>すく</sup>技<sup>ぎ</sup>巧<sup>こう</sup>に<sup>すく</sup>優<sup>う</sup>れた<sup>り</sup>  
リ<sup>り</sup>デ<sup>デ</sup>イ<sup>イ</sup>ア<sup>ア</sup>人<sup>じん</sup>の<sup>の</sup>  
残<sup>のこ</sup>した<sup>へ</sup>壁<sup>か</sup>画<sup>が</sup>が<sup>あ</sup>る



こ<sup>ひ</sup>い<sup>と</sup>つ<sup>は</sup>  
人<sup>ひと</sup>が<sup>て</sup>手<sup>て</sup>に<sup>に</sup>した<sup>した</sup>  
最<sup>さい</sup>古<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>遊<sup>あそ</sup>戯<sup>ぎ</sup>だ









ここに御出でか  
砂塵王

しかし王も  
目敏い事を  
なさる

今から  
将来の細君を  
手懐けようとは



……  
人の真心だ



しかしそれも  
我が国の繁栄の為  
商人に言わせれば  
これも先行投資と  
言えましょうな

軍師ツ



貴様はなんでも  
知っている様だが

学ぶべきだな

フッ



姫様の期待は  
膨れ上がりました



覚えたばかりの  
小さなジャグリを



誰よりも見て欲しい  
人の元へ









この時もう后様は  
壊れていたのです

……  
人形だから

間もなく后様は  
亡くなれました

笑わぬ  
血族の連鎖……

母は生涯娘に  
微笑む事無く  
……娘は母の  
野辺の送りに涙せぬ











思い出してください  
その涙を

わはあ  
なんて素敵な  
泣き顔でしょう

胸の底から  
お泣きくださいッ

ああ...  
おっ...お母さん

お母さん...

お母さん...  
葬儀で...私  
泣けなか...った

ごめん...なさい



泣いて泣いて泣いて  
今度は腹の底から  
思いっきり……





アムシヤス様は  
ソフラーブ様を  
笑わせるとおっしゃった  
そうですね？



ああ



ジャグリは  
楽しいですか？















紫電一閃——  
いまなにが起きたのか？





誰<sup>だれ</sup>の血<sup>ち</sup>なのか？

どれほどの時間<sup>じかん</sup>が  
凍<sup>こ</sup>っていたのか？



分<sup>わ</sup>からない…

ああでも



みんな  
狂<sup>わ</sup>喜<sup>ら</sup>ってる











でもその前に…  
アム様の隣にいる  
女を殺さないとい…  
女は嫌い…私以外  
皆死ねばいいのに

あー  
めいめい

オマエだよ  
糞アマツ!!

乙女ってのはなあ  
遠くから見守る  
ものなんだよ!  
それが  
純愛だよ!!

隣を歩いて  
彼女面すんな  
この売女ア!

ああもう  
女は死ねツ  
全部死ねツ

まずはオマエ  
からだツ!!

黙って  
観てなさいツ

ぐあツ

だめだめ  
アンタは今回  
観客だよ







そして最後に  
勝ち抜いた  
一人の男が残るの

まるて  
獣ね



そして  
こう言うの

世界はこんなにも  
小さくて粗末なモノ  
だったのね…って

おおおお  
あああ  
あ







でも…貴女と  
ひめさま  
ちが  
姫様は違  
うッ

だからッ

!?

ここで  
アムシヤス様を  
失うわけには  
いかないッ

姉ちゃん!?

あの方<sup>かた</sup>はどんなに  
打ち<sup>うち</sup>のめされても  
待ち<sup>まち</sup>続けてる

人間<sup>にんげん</sup>を信<sup>しん</sup>じて  
いるんだッ

七首<sup>しちしゅ</sup>ッ!?  
自刃<sup>じにん</sup>用の懐刺<sup>かいし</sup>  
覚悟<sup>かくご</sup>を背負<sup>かか</sup>う  
者の証<sup>しるし</sup>かッ!







そうかい  
殺る気があるなら  
そう言えよッ



アムシヤス様 この身が  
刃を引き付ける隙に  
お逃げくださいッ

私の事は  
ご心配なさらず

どうか姫様に  
光明をッ！





俺の背中  
でじっとしてろ  
すぐに終わる



その華…無駄に  
散らすなド阿呆がッ



俺が  
ジャグリだけだ  
と思ふなよ





んじゃ  
いくよッ





















不可解



あれは良か?

身構えろッ



芽生える  
猜疑



死地に陥れた者の  
態度とは思えない

ありえない



興醒めだ  
こんな手品の初歩に  
囚われるとは











わたしの  
××××に接吻なさい



命を捨てて助けようとするんですもの  
何でもするわよねえ？

ええ  
そうでしょうとも  
家畜の様に運って

服従の証を



さあ









そう...  
もっと上へ

...って  
上過ぎ...

ヨウイデスカ?

ダァ















リツウ

カラ

カラ

あッ...  
ああ



逝くのは  
童貞を捨ててからに  
することだッ

あッ  
阿呆だッ

空から阿呆が  
降ってきたッ

俺は——ッ!!

道化ッ

俺は…

この背中を  
知っているッ





かつて奴隷商団の  
討伐を買って出た男が  
何をしている？

王子たるもの  
父王以外の者に  
膝を屈してはならぬ



まして戦士とは  
敵を胸に晒し  
女を背に抱く者



口で囁るな  
胸をそらし  
背中であれ







見ててくれッ



鼻ツ垂れのがきが  
イイ背中になったッ







われら  
アシシニ  
我等は逸脱者ツ

はあ

はあ

われら  
死すら  
楽園の門扉を開く  
……ツ

おまえ達  
は  
アシシニ  
ではない

何を  
うろたえるツ

結むなツ











アシシニ篇 chapter 3







なんだみんな  
楽しそう

この王様は  
変わり者らしいけど  
治安の行き届いた  
いい国だからね



姉ちゃん凄  
いよ  
人が蟻のよう  
だッ



長い旅だったけど  
もう放浪民の生活は  
終わり

三人で  
夢叶えるよッ







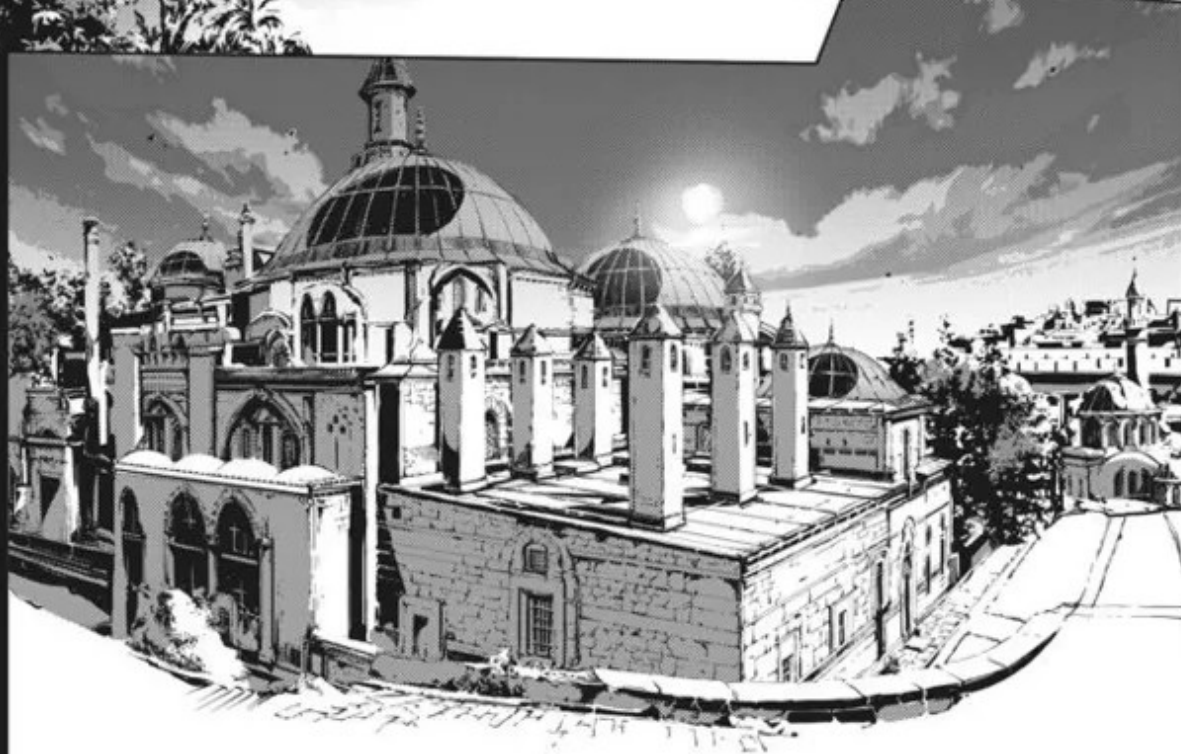














おお来たか…って  
なんだまだ子供かよ

いいじゃねえか  
オレは好きだぜエ

!?

帰だよ

だ  
誰ッ  
だれ

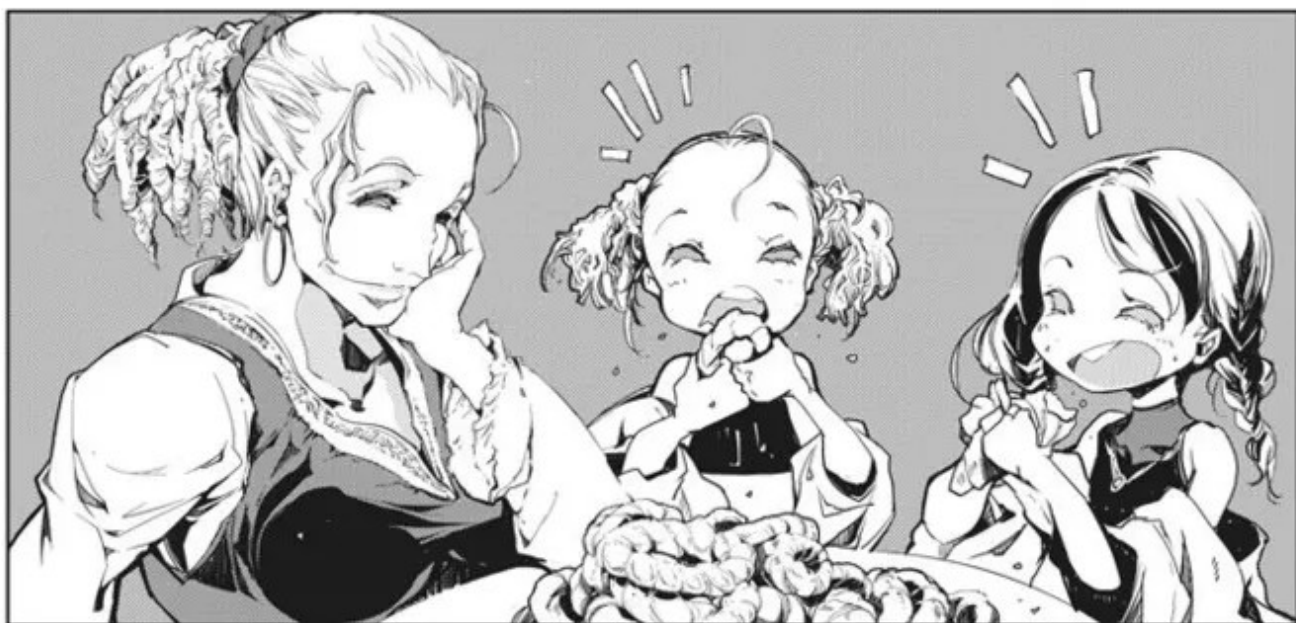
あ  
の娘達  
はッ  
こた

!?

見  
て  
み  
な  
ッ  
み

下  
で  
お  
ま  
ん  
ま  
の  
最  
中  
さ  
し  
た  
さい





いい身分だよなア  
姉ちゃんの苦勞も  
知らないで









なんだッ

なんだ  
これはッ?

なんなんだッ!?



ほ  
欲しかった  
のは笑顔  
のお

ほろ  
秤にかかる  
のは矜持  
きようじ



わたし てん びん  
私の天秤は……

# 決まっている











もう長<sup>なが</sup>くないねえ  
この娘<sup>むすめ</sup>は……

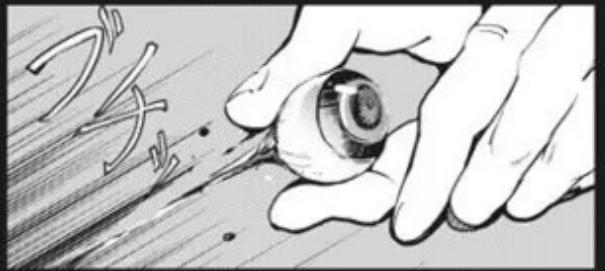
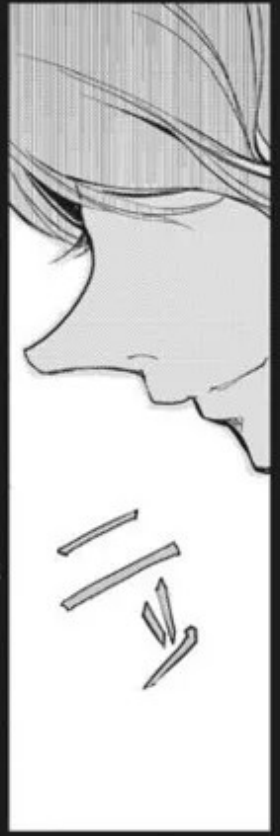
其<sup>そこ</sup>処<sup>こ</sup>な  
お嬢<sup>じょう</sup>さん

ザッ















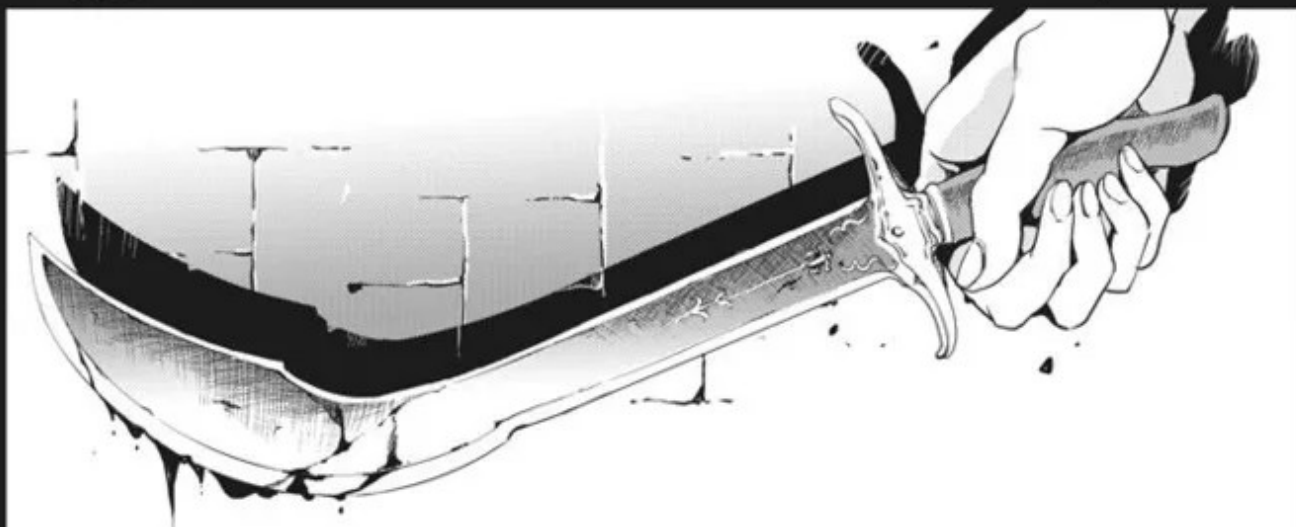














そ...そうだ!  
俺の本妻にしてやる!  
放浪民なのに籍が手に入る  
そうしようッ

俺はおまえの事を  
愛しているッ



ぎやあああ  
あああああ  
あッ



姉...

ちゃん?

糞虫が.....





消えろ  
消えろッ

糞虫ッ  
くそむし

あーあーあー  
あーあーあー

うん

あはははは  
あはははは

あはははは  
あはははは

















なまごろ  
生殺しは  
ふびん  
不憫だ

うああああ  
あッあッあッ

ガク

うッ  
うえ

くる  
苦しまずに  
い  
去ねッ



駄目ッ







この期に及んで  
人間面するな

狂酔は大いに結構  
だが酔いが醒めたら  
すいませんか？



貴様らは  
畜生だ

畜生風情が  
情を弄ぶなッ

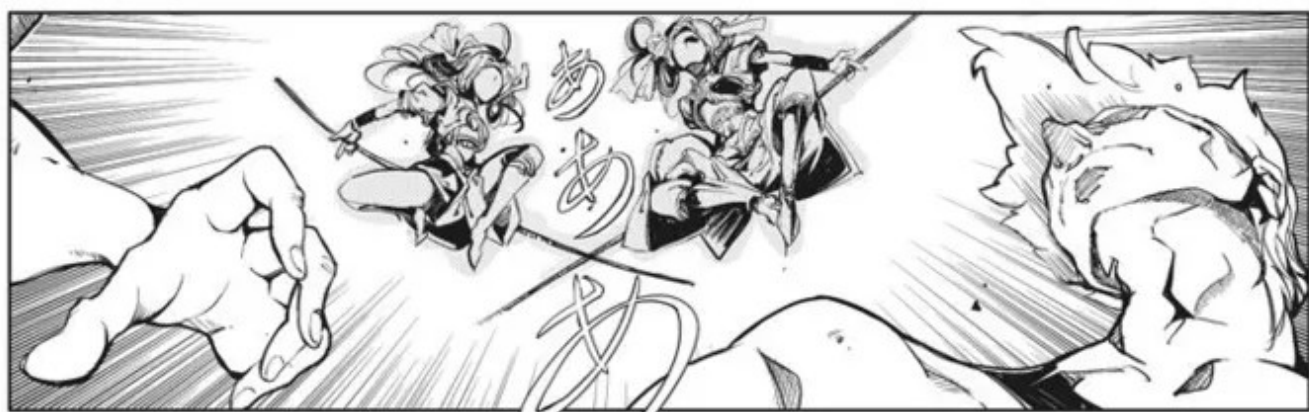


ハシシに逃避して  
良民に牙を剥く  
一方で

死ぬ気で狂えませぬ  
逸脱者にもなれぬ  
屑共が人を気取るな













おまえら...  
何やってんだよ









チリ  
チリ  
塵は塵に

クズ  
クズ  
屑は屑に

ひい...  
い...  
い...

ぬッ

ぬぎいい



うえええん  
やだよ  
怖いよおお

















することがないなら  
俺おれに手てを貸かせ  
皆みんなの太陽たいようになるんだッ



もう殺ころすのは  
うんざりだ

今度こんどは  
笑わらわすんだ

明あかるく照てらすんだって  
アラギユン  
立ち上げたんだろうがッ











ちが  
違<sup>ちが</sup>うねッ こんな  
捻<sup>ね</sup>じ曲<sup>ま</sup>がった厄<sup>やっ</sup>介<sup>かい</sup>な  
強<sup>きやう</sup>敵<sup>てき</sup>はそうはいない



こいつら國<sup>くに</sup>の恥<sup>ち</sup>部<sup>ぶ</sup>だ？  
最<sup>さい</sup>下<sup>か</sup>層<sup>そう</sup>の  
ゴミタメだど？



誰<sup>だれ</sup>も  
そこまではッ



それができるのが  
ジャグリじやないかッ

そんなやつらを  
笑<sup>え</sup>顔<sup>が</sup>にする  
心<sup>こころ</sup>を晴<sup>は</sup>らす……

ガッ









!?

おっ!  
おっ!  
おっ!





カラエ







さあ来いよ  
舞台はいよいよ終幕だ

おまえらの一切合財  
全部ひっくるめて  
相手してやるよッ



ふッ...

ふふ...

ふッ...ふふ  
素敵ね...  
本当に素敵...

姉ちゃん...

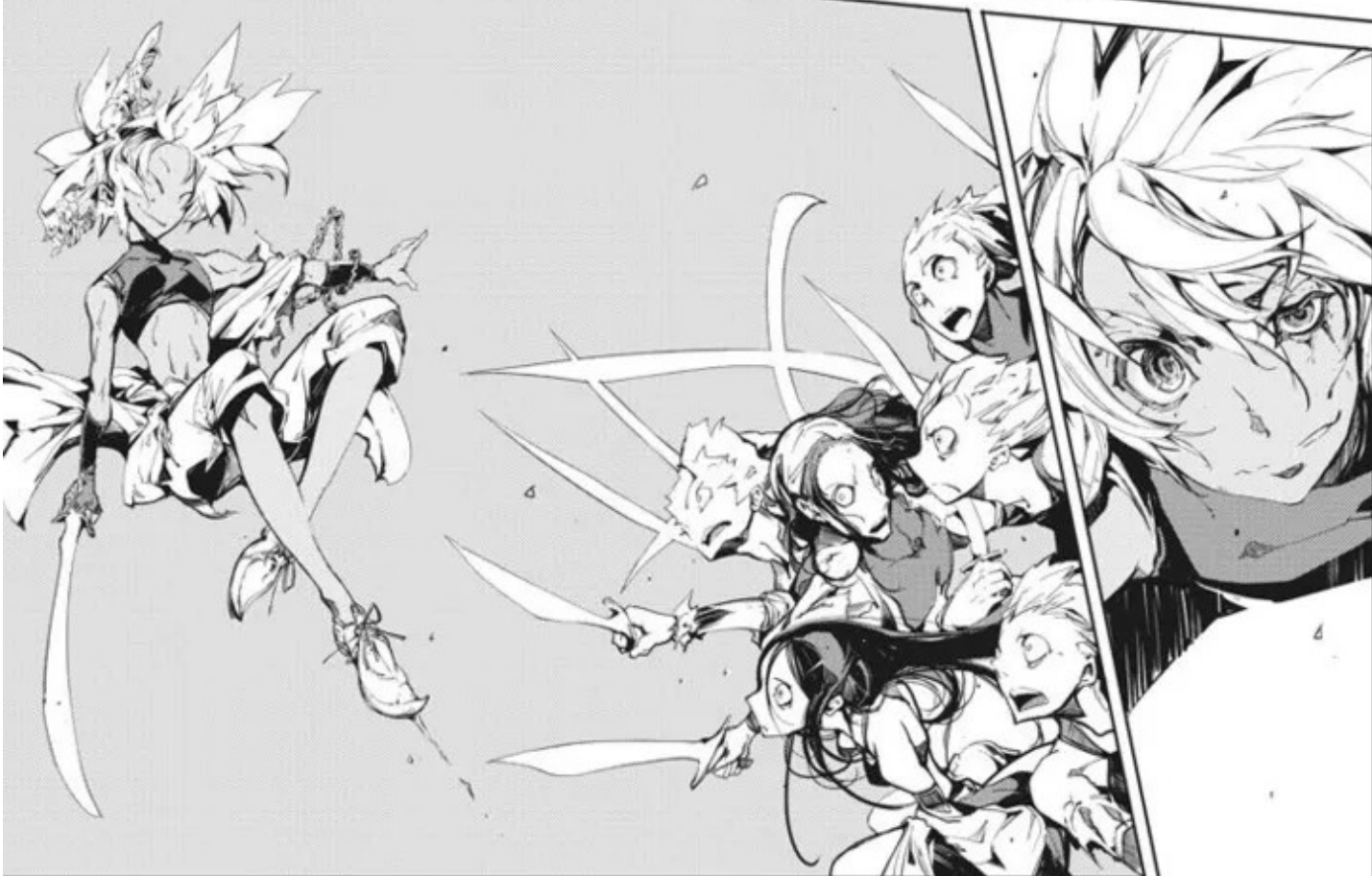
のぞ  
どお  
いのち  
お望み通りその命  
ぶっ散らして  
やるよおおッ!!



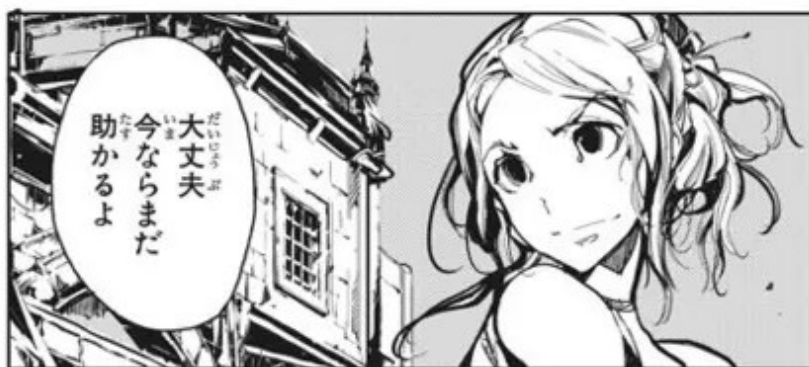














姉<sup>ねえ</sup>ちゃんを……  
だずげでッ



あいつに  
まか  
任せておけ



しかし誰<sup>だれ</sup>が……  
アシシニ<sup>せんおう</sup>は先王の  
治世<sup>ちせい</sup>で廃<sup>はい</sup>されたはず

居<sup>い</sup>るな  
魔窟<sup>まくつ</sup>に巢食<sup>すく</sup>う  
悪鬼<sup>あくき</sup>どもが



随分<sup>ずいぶん</sup>と信頼<sup>しんらい</sup>して  
おいでですこと  
私<sup>わたし</sup>たちには道化<sup>クラウン</sup>の  
ような真似<sup>まね</sup>を  
させておいて

ようなではない  
道化<sup>クラウン</sup>が今<sup>こん</sup>回の  
俺<sup>おれ</sup>たちの配役<sup>はいやく</sup>だ

おおなんと  
嘆かわしいッ

片や残忍  
片や道楽

あんな驕児が  
上座に座せば  
国は滅びる

しかし  
アシシニは  
やりすぎでは……

あれは早すぎたのです  
もっと時間をかけて  
育てるべきだった

だが代わりは幾らでもいる  
今の私は商人だ  
大麻の仕入れ先には  
事欠かない





この国にはもう  
貴方しかいないのです  
至尊の座をお取りなさい

そっ…

イク











おれ  
俺たち自身  
が  
いま  
今この瞬間  
誰よりも  
輝く太陽だッ



みんな俺たちを  
みてるまるで  
舞台の上だ



楽園も天国も  
そりや  
結構だけど









そんな時やまた  
這い上がればいい  
それが太陽だからな

そうだろ？ 出てこいよ  
引き籠もりの魔神ッ!!  
外は気持ち良いぞ？



どうした  
死にかけにしては  
随分と元気じゃが  
助太刀が欲しいか？



ねが  
願わば万象  
かな  
叶えるぞえ!!

妾はランフの魔神  
アーリ・マンユ







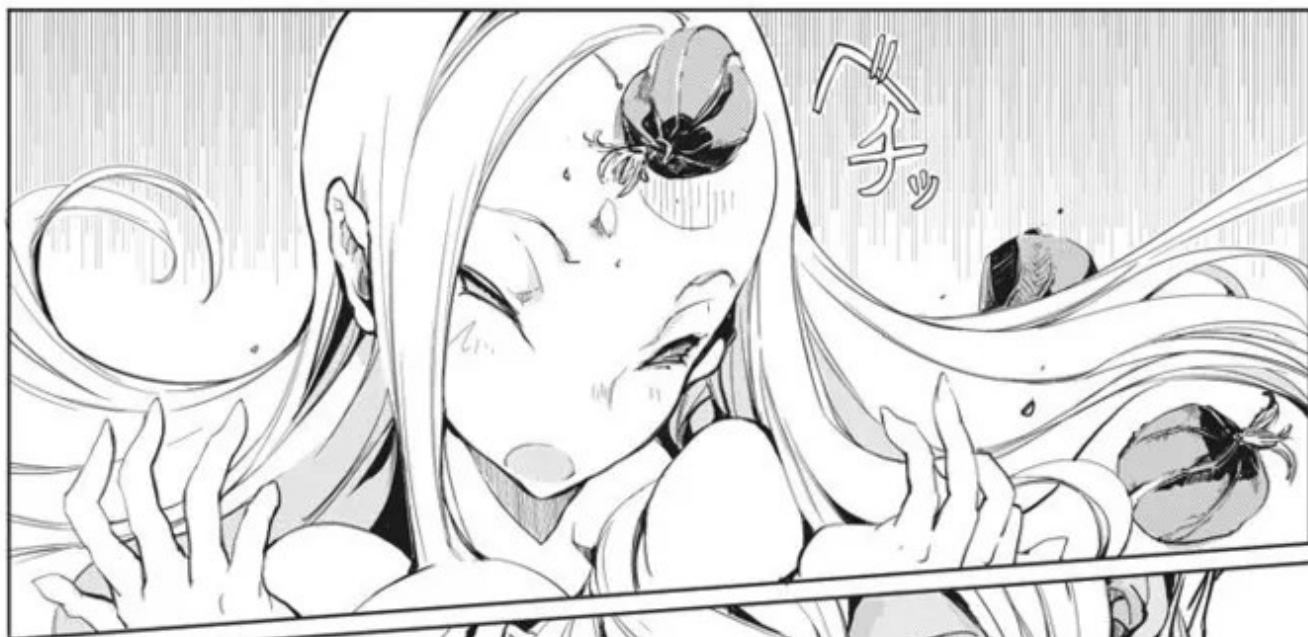












へたくそ



でも世界で  
いちばん  
一番すばらしい  
ジャグリだ



そうもう  
ひとりじゃないさ

そう… ただ<sup>そば</sup>傍で <sup>わら</sup>笑ってあげるだけでよかったんだ



## Ethnicle romance Juggle

Okito Endo Presents. The Eternal Organ from 70's Generation.







# 悠スィスタ ブル白書

後篇

本篇取材と称して  
行て来ました。  
イタブル1週間旅

著者代理  
Soul Brothers  
魂の双子

おはぎさん

ニャビ♡



走馬灯の如く





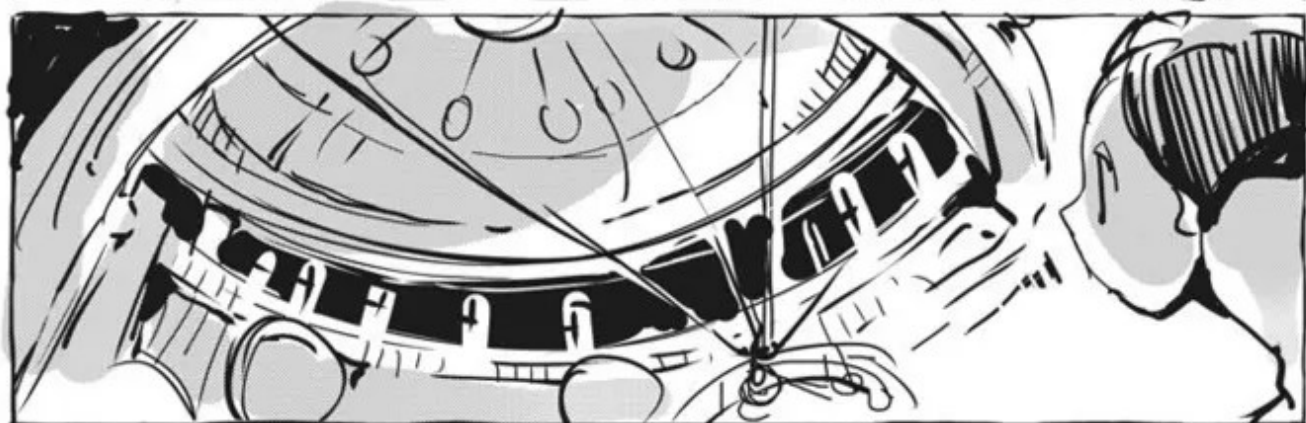




からかわれてしまった







■ありがとうございました■

Ethnicle romance **Juggle**





# ジャグリ

Postscript  
■あとがき

マユが成人したら多分こんな感じになると思う

トイレのトイレット  
ペーパーを  
使うなッ

雨日ない

なんだこの  
スレイヤー時間  
ってのは?

いや駄かしい

ヘッドホンばかり  
集めてんじゃねーよ

すいません

うわッ  
このキヤノン  
カメラさだろッ

死にたい

編集部からの電話  
居留守使うなよ

んん?  
それば本当に  
たまにアス

なほ  
背後から話してくれろ  
悪魔っ娘大募集

Ethnicle romance **Juggle**



連載前のヤラアザ絵です、マコには世を退く  
人間を厭もありません。



ランアの魔人



ちまちま描きました、女の娘を描いて悪魔っ娘を描いておっさんとモブと背景を  
描いて幸せ満喫です!! 絵描き奴隷に生まれて、毎日眼から血涙が出るほど幸せです!!  
作画は第一話から最終話まで全て自分ひとりで描きましたが最後の単行本  
編集を手伝ってくれたOni-yanさんありがとう、君が初めてのアシさんだッ

アザの  
拝火教のアザ・マコ

チェリンが成人したら多分こんな感じになると思う



ジャグリ2巻を読んで頂きありがとうございます! 御座いました!  
それではまたの機会にッ、またどこかでッ!!

2011.10 袁陳冲

本書（電子版）に掲載されているコンテンツ（ソフトウェア／プログラム／データ／情報を含む）の著作権およびその他の権利は、すべて株式会社アスキー・メディアワークスおよび正当な権利を有する第三者に帰属しています。法律の定めがある場合または権利者の明示的な承諾がある場合を除き、これらのコンテンツを複製・転載、改変・編集、翻案・翻訳、放送・出版、公衆送信（送信可能化を含む）・再配信、販売・頒布、貸与等に使用することはできません。

---

電撃コミックス

## ジャグリ②

2012 年 12 月 27 日 配信

---

著者 袁藤沖人

---

発行者 塚田正晃

発行所 株式会社アスキー・メディアワークス

〒102-8584 東京都千代田区富士見 1-8-19

---

(C)OKITO ENDO 2011

---